

市長提案説明要旨

平成30年6月7日

本日ここに平成30年第2回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などの説明を申し上げます。

《はじめに》

大学アメリカンフットボールでの悪質な反則行為をはじめ、横綱による傷害事件など、日本スポーツ界で不祥事が相次いでいます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、社会全体でスポーツマンシップのあり方について問い直す必要もあると思います。

さて、スポーツにおける選手やチームの活躍は、スポーツへの関心を高めるだけでなく、人々に夢や感動、勇気を与え、住民の連帯感を高め、地域を元気にします。

今年も、本市から選手やチームが世界大会や全国大会に出場し、活躍が期待されます。市民の皆様の熱い声援をお願いいたします。

4年に1度のサッカーの祭典ワールドカップ・ロシア大会が今月15日から開幕しますが、日本代表に我らが鹿島アントラーズから昌子源選手、植田直通選手が選出されました。

グループリーグでは、19日のコロンビア戦を皮切りに、セネガル、ポーランドと世界トップレベルの選手が揃う強豪国に挑みます。

夢の舞台で、持てる力を存分に発揮され、日本国中を熱くするような活躍を願っております。

新日鐵住金鹿島硬式野球部（カシマブルーウィングス）が、大混戦となった北関東大会をプレーオフの末勝ち抜き、3年連続、18度目となる都市対抗野球大会への出場を決めました。

新日鐵住金株式会社は、来年4月1日に「日本製鉄株式会社」に名称変更することから、「住金」の名称が入ったチームとしては、最後の都市対抗野球大会への挑戦となります。

7月13日から東京ドームで熱戦が繰り広げられますが、一戦必勝で、悲願の黒獅子旗の獲得を心待ちにしております。

我らが鹿島アントラーズは、リーグ戦では厳しい戦いが続いておりますが、ア

ジアンバーワンクラブを争うアジアチャンピオンズリーグでは、10年ぶりのベスト8進出を果たしております。

初のアジアチャンピオンの獲得とリーグ戦での巻き返しを期待しております。

《事業の概要等》

続いて、市のまちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

(スポーツでつながるまちづくり)

東京オリンピック及びいきいき茨城ゆめ国体の開催に向けての取り組みについてであります。

先月29日、市議会をはじめ、経済や交通、スポーツ、医療福祉、教育文化、環境保全など幅広い分野で活躍されている団体や行政機関などの多くの皆様の参加のもと、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会鹿嶋市推進協議会を設立しました。

今後、オリンピック開催に係る情報の共有や連絡調整を図りながら、関係団体や市民、市などが一体となって、機運の醸成や鹿嶋ならではの「おもてなし」への態勢づくり、市民団体活動の推進など、地域の活性化に向けた取り組みを推進してまいります。

オリンピック・パラリンピックのメダリストを含むトップアスリートを「夢先生」として、今年度から2カ年計画で市内の全ての公立小中学校に派遣する、オリンピック・パラリンピック教育推進事業については、先月28日に、元日本サッカー協会会長の川淵三郎氏を迎え、協定調印式を行った後、高松中学校において、男子競泳メダリストの宮下純一氏による交流授業が行われました。

第2回目は、今月14日と15日に、平井中学校において、女子競泳メダリストの加藤ゆか氏と鹿島アントラーズでも活躍された深井正樹氏による授業が行われます。14日には、一般観覧も可能な特別講演会も開催されます。

オリンピックの機運醸成を図るとともに、子どもたちの夢を育み、心身の健全な成長を支援してまいります。

今月3日には、まちづくり市民センターにおいて、「オリンピック・パラリンピックを活用した市民活動を考える」をテーマに、まちづくり研修会が開催されました。地区まちづくり委員や市民活動関係者など多くの参加者は、この歴史的なイベントを活用する視点や方策について、講師の具体的な説明を受け、今後の活動展開に役立つ貴重なヒントを得ることができたものと思っております。

いきいき茨城ゆめ国体とリハーサル大会となる今年10月の全国社会人サッカー選手権大会に向けては、施設の整備と市実行委員会などによる受入れ態勢の両

面において、着実に準備を進めております。

ト伝の郷運動公園多目的球技場は、国体施設整備基準に基づく人工芝の全面改修や観客席、夜間照明の整備が完了しました。

また、市内中学校の生徒で結成した「鹿嶋市中学校生徒会連携プロジェクトチーム」における国体でのおもてなしやPRなどの企画の事業がスタートするとともに、先月17日の市小学校陸上記録会の開会式では、1,000人を超える児童による国体ダンスが披露され、テレビや新聞でも多く報道されたところです。

子どもたちが国体に関わることにより機運醸成を図るとともに、「スポーツのまち かしま」を発信してまいります。

皆さんはネットボールというスポーツをご存知でしょうか。

日本では、未だ馴染みが薄いかもしれませんが、バスケットボールから派生した競技で、70を超える国・地域で楽しまれているスポーツです。

平成31年6月に開催されるアジアユース大会の鹿嶋開催の誘致に向けて、先月12日と13日の2日間、カシマスポーツセンターでリハーサル大会が行われました。

国体やオリンピックの開催地として、一層高まる「スポーツのまち かしま」の知名度を生かし、国内外の様々なスポーツ大会を誘致するなど、スポーツによる地域の活性化に取り組んでまいります。

(未来を創るひとつづくり・まちづくり)

妊娠・出産・子育て支援の拠点として、この4月に市保健センター内に開設した「鹿嶋市子育て世代包括支援センター(りぼん)」は、多くの妊婦の皆さんやご家族から落ち着いた雰囲気の中で相談しやすいなど、好評をいただいております。

また、今月3日には、市保健センターにおいて、「パパ・ママ応援イベント」を開催しました。これから新しい家族を迎えるプレパパ・プレママや子育て中のパパ・ママを応援するため、子育て講座や子育て・育児に役立つ情報、子育て相談、市内起業家などによるマルシェなどに、650人もの方にご来場いただき、大変な賑わいを見せておりました。

引き続き、皆さんに「子育てするなら鹿嶋市で！」とだけ言っていたら、子育て支援の充実を図ってまいります。

今月4日から、生活困窮世帯の学習機会の喪失による貧困の連鎖防止を目的として、生活困窮世帯に属する中学校2年生と3年生を対象に「子どもの学習支援事業」をスタートしました。

申し込みのあった生徒は15人で、週1回程度、自主学習の支援や日常生活相談などを行い、子どもたちの学力の向上と生活の両面からサポートしてまいります。

家庭は、教育の原点であり、全ての教育の出発点であります。

昨年度から家庭教育支援チームによる訪問型家庭教育支援を行っておりますが、今年度は、5歳児を持つ全家庭を対象に家庭訪問を実施します。

幼児教育から学校教育へ環境が大きく変わることへの不安や困りごとの早期発見・早期支援に努め、子どもの健やかな育ちを支援してまいります。

鹿島中学校が科学技術に関する生徒の主体的研究への環境づくりが評価され、文部科学大臣表彰の「平成30年度創意工夫育成功労学校賞」を受賞しました。

我が国の発展にとって科学技術の振興は欠かせません。また、知的好奇心は学びの原動力であります。

子どもたちの好奇心と新しいことに挑戦しようとする意志を大切にし、自主性と創造性を伸ばす教育環境づくりを進めてまいります。

教職員が健康でいきいきとやりがいを持って勤務でき、教育の質を高められる環境づくりが課題であります。

国の「学校における働き方改革に係る緊急提言」に基づき、5月1日から市立の幼稚園及び小中学校における教職員の働き方改善に向けた取り組みを試行的に実施しております。

長期休業期間中の定時退勤を推奨するとともに、8月13日から15日までの3日間や茨城県民の日、創立記念日などに休園日・休校日を設定します。

また、中学校部活動の負担軽減として、週2日以上 of 休養や11月から2月末までの朝練習を実施しないなどの取り組みを進めてまいります。

(地域資源を生かしたまちづくり)

先月15日、本市のほか、鹿島神宮や市商工会、市観光協会、鹿島灘漁業協同組合、しおさい農業協同組合の出資により設立された「まちづくり鹿嶋株式会社」の設立記念式典が、関係団体や地域の事業者、住民など多くの皆様の参加のもと、盛大に開催されました。

地域が一体となって、鹿島神宮周辺の特性を生かし、賑わいの創出に力を発揮されることを期待しております。

今年の11月1日、2日の両日、鹿島神宮において、将棋界最高位のタイトル戦である「竜王戦」7番勝負の第3局が開催されることが決定しました。

将棋界で史上初の永世七冠を達成し、国民栄誉賞を受賞した羽生善治竜王への挑戦権を賭けて、注目の若手棋士、藤井聡太7段などが激しい戦いを繰り広げております。

将棋ファンのみならず、日本国中の注目が鹿嶋に集まることが期待されます。

鹿島港外港地区において、鹿島バルクターミナル株式会社のコールセンター（貯炭場）が完成し、今月にはオーストラリアから石炭船が入港予定となっております。外港公共埠頭の本格的な利活用がスタートします。

引き続き、鹿島港が安全で使いやすい港となるよう整備促進と外港公共埠頭の利活用について、積極的に関係機関への要望活動を行ってまいります。

本市へのU I J ターンの促進に向けて、7月24日と9月下旬に、東京都新宿区の東京新卒応援ハローワーク「出会いのフロア」において、「鹿嶋市移住・就職相談会」を開催します。

魅力的な職場の情報や子育て環境の充実、教育力の高さなど本市の魅力を発信することで、若い世代の本市への移住を促進してまいります。

（市民と共に創るまちづくり）

市民主体の豊かで活力ある地域づくりを進めるうえでは、市民のまちづくり活動が重要な役割を果たします。

今月17日には、市役所駐車場において、環境サポーターが結集し、不法投棄の撲滅を広く訴える、第14回鹿嶋市環境サポーター統一行動が開催されます。

本市では、環境美化や防災防犯、教育文化、スポーツなど様々な分野で活発に市民活動が展開されており、自主的な市民活動が持続的・発展的に展開されるよう支援を図ってまいります。

私の2期目がスタートし、早くも1か月余り経過しました。

今後の市政運営について、市民の皆様にご説明し、ご理解とご協力をお願いするとともに、皆様からのご意見などを市政に反映させるため、各地区公民館において、7月から市政懇談会を開催します。

市民の皆様と積極的な対話を通じて、地域の課題やまちづくり情報を共有し、鹿嶋の未来づくりに向け、共創のまちづくりを進めてまいります。

（住んで安心のまちづくり）

2015年の厚生労働省発表によると、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占めると推計されています。

本市の今年4月1日現在の高齢化率は30.1%、2025年には約3人に1人が高齢者となる見込みであり、認知症高齢者の増加への対応が課題であります。

この4月に、鹿島病院の協力のもと、福祉と医療機関が連携・協力する「認知症初期集中支援チーム」を発足させました。

認知症に対する理解の促進を図るとともに、認知症の早期発見・対応の仕組みづくりや権利擁護を推進し、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れ

た地域で安心して暮らし続けていけるよう、認知症高齢者やご家族の支援を図ってまいります。

8月11日に、カシマサッカースタジアム周辺において「茨城県・鹿嶋市合同総合防災訓練」を実施いたします。

茨城県との相互の協力体制の強化を図るとともに、消防署や病院などの防災関係機関と市民が連携して、災害時における人命救助や避難所のあり方などを再確認しながら、市民の防災意識の高揚を図り、安全安心なまちづくりを進めてまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げました。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が1件、条例関係議案が5件、人事関係議案が18件、合わせて24件であります。

まず、予算関係議案は、平成30年度一般会計補正予算であります。

コミュニティ助成事業補助金による市民参加のまちづくり事業の増250万円、普通教室等エアコン整備に係る小学校大規模改造事業の減3億4,370万6千円を計上しております。

なお、小学校大規模改造事業については、平成29年度3月補正予算において、国の補正予算を活用し前倒しで予算化したため、これらを減額するものであります。

条例関係議案は、いずれも改正するものであり、「鹿嶋市税条例の一部を改正する条例」などがあります。

人事関係議案は、「鹿島地方公平委員会委員の選任について」などがあります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。